

文化庁参加作品

平成 19・21 年度「本物の舞台芸術体験事業」参加作品

平成 22 年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」参加作品

平成 23 年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品

平成 24 年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品

本物の友情は、心と体のぶつかり合いから生まれる！

なるほ堂 ものがたり



ナゾの店「なるほ堂」が、ボクたちに勇気を与えてくれた。

なるほ堂 ものがたり



『缶けりしようぜ、缶けり!!』



あらすじ

いつも一緒にいるサトシとリョウタ。ふたりでゲームをしたりまんがを読んだりしている、仲の良い友達です。

ある日、町を歩いていると、不思議なおじさんが目の前を通りすぎます。なんだか気になっておじさんをつけていくふたり。おじさんは『なるほ堂』という店に入っていました。…あれ、ちょっと待てよ。ここにこんな店あったっけ?ふたりが中をのぞくと、そこにはヘンな物や不思議なものがいっぱい!

はてさて、『なるほ堂』とはいったい…?彼らを待ちうけているものはなんでしょう。ファンタジックでリアルな冒険のはじまりです。

制作にあたって

その昔、狼に育てられた姉妹がいました。彼女たちは発見された後、人間の社会で生活を始めますが、適応できず、早々に亡くなってしまったと聞いたことがあります。これが21世紀の現代なら「電化製品に育てられた子どもたちがいました」となるのでしょうか。

人は、生まれ、たくさんの人たちと関わってこそ「人間」としての成長が保障されます。わずらわしいことではありますが、時には友達とけんかしたり、おとなから叱られたり、または仲間たちとちよっぴり「悪いこと」もしながら。そうやって、自分自身を出したり抑えたり、人を受け入れたり離れたりしながら、豊かな人間関係を築く力を養うのが「子ども時代」なのでしょう。

「なるほ堂ものがたり」に登場するふたりの少年は、いつも一緒にいるあいまいな親友同士。ひとは怖い、傷つくのはもっと怖い。だから本当の気持ちは言わないままです。そんなふたりが足を踏み入れた『なるほ堂』。はてさて、なにが起ころのやら。

子どもたちは「未来」です。未来は彼らの手の中にあります。だからこそ、一度しかない子ども時代を子どもとして、一度しかない人生を人間として生きる。わたしたちおとなは、そのための環境を整える視点を持って生きていく必要を感じています。

スタッフ

- 原案/台本プロジェクト (あさのゆみこ おやまじゅん 仮屋祐一 後藤尚子 山本佐助 中島 研)
- 脚 色/山本佐助
- 音 楽/曲尾友克
- 歯車設計/北川正憲 (絡線屋)
- 衣裳製作/りうや
- 台本・演出/あさのゆみこ
- 美 術/小峯三奈
- 美術協力/保坂真紀
- 制 作/仮屋祐一

演出の つづやき



中学1年生のとき先生が言ったことをふと思い出した。「ひとは歯車。相手がいて自分がいてやっと回り出す。ひとの力を借りて自分がいるんだよ」—この舞台は、歯車のセットがポイント。テーマは直球ド真中で「コミュニケーション」。メールやネットでの会話、今日あそぼう!と放課後会っても、ゲームとマンガをそれぞれやるだけの「友達」…そんな現代の子どもたちサトシとリョウタが、23世紀の未来からやってきた旅人・なるほ堂店主桐野三郎に出会って起きる大騒動。お楽しみに!



サトシとリョウタ
ふたりは親友…かな?



店?ここに店あったっけ?



あやしいじーちゃんに会う。
なるほ堂店主 桐野三郎



あれれ、
ふたりの仲がギクシャク



なるほ道具はおもしろい。
買いまくってどんどん使っちゃえ!!



あ!
またしてもあやしい男



ふたりの運命やいかに!?

感想文

おじさんのはつめいがすごくおもしろかったです。ちえんじだまでちえんじするところがおもしろかったです。(1年)

はぐるまが家になるところがすごかったです。おじいちゃんがじめんの中みたいなのところにいたから、どこにどあがあるのかなあと思いました。(2年)

とてもたのしかったです。声が大きかったです。おじいさんとおもいました。気もちをいうとうたがながれてくるのがほしいです。なぜかというとうたがすきだからです。(3年)

サトシとリョウタがけんかをして、あととなかなおりをしたところがよかったです。あとヘルメットのような物をかぶってかこのことが分かるなんてすごかったです。(4年)

リョウタとサトシはともだちだったけどけんかをしてしまった。でもごめんねとちゃんとあやまってかなおりをしたので、ほくはすごいなと思いました。(4年)

とっても楽しい劇をありがとうございました!私はこのような楽しい

劇を見ると、気もちがワクワクしてきます。こんなときにあの音楽たいがいたらなあ…。なんか、ほかの世界に行ってしまったみたいでした。私のワクワクの気もちをつくってくれて、本当にありがとうございました。(5年)

今日『なるほ堂ものがたり』を鑑賞して、200年後の世界はコンピューターばかりの世界になっていると聞いて、本当にそうなるかわからないけど、なっていたらいいなと思いました。そうならないためにも、これから自分の意見はきちんと相手に伝えて、人の心を忘れない世界にしたいなと思いました。(6年)

ほくはこの演劇を鑑賞して、友達はかけがえのない存在だと思いました。なぜなら友達がいなくてわらったり、けんかしたりできないからです。あと相談したり自分の気もちを打ち明けられませんか。これからは、もっと今まで以上に友達を大切にしていきたいです。(6年)

今の子どもたちを象徴している内容で考えさせられました。でも、きっと何かきっかけがあればちゃんと自分たちで考えたり行動したりできるんですね。誰かが、子どもたちは今も昔も変わらない。変わったのは子どもを取り巻く環境だと言っていました。風の子九州のお芝居を見ていると、本当にそうだと思います。そして、子どもたちの笑い声を聞いて、ほっとします。(おとな)

子どものいるところ どこへでも とんでいく

劇団 風の子九州

- 日本児童・青少年演劇劇団協同組合加盟
- 全国児童・青少年演劇協議会加盟
- アシテジ（国際児童青少年演劇協会）加盟
- 福岡県文化団体連合会加盟

劇団紹介

劇団風の子九州は、1985年劇団風の子より独立して誕生した、九州の福岡に本拠を置く児童青少年演劇の専門職業劇団です。`子どものいるところ、どこへでもとんでいく`を合言葉に、九州・沖縄各地の街中や山間部の集落、点在する離島を駆け回ってきました。

90年からは国内だけでなく、韓国、中国、インドネシア、パキスタン、インド、オーストラリアなど、アジアを中心に海外公演にも出かけ、多くの人達との交流を深めてきています。

2002年からは、韓国の劇団サダリとの合同公演作品『マンナム』を創り上演してきました。アシテジ（国際児童青少年演劇協会）の国際フェスティバル in ソウルでは日本代表としても参加しました。

これからも地域で、`子どもたちと共に未来を創る劇団`として、従来の演劇様式にこだわらず、遊びや日常生活の中から、新しい創造と表現の世界を追求し広げていきたいと思っています。

これまでの作品



うたえ雨姫



準備完了! 第1号計画



竜のとぶ冬



風の子あそびやとっぴんしゃん



そのウソ、ほんと?



いらっしゃい



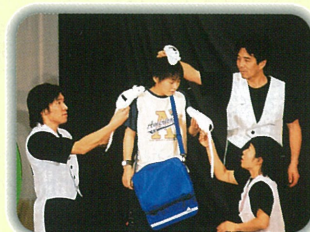
ちょちよいのチョイス



ミローン



マンナム



3ちゅう very much!



劇団 風の子九州

〒814-0002 福岡市早良区西新 5-5-13

TEL092-841-7889 FAX092-841-7896

ホームページ: <http://www.kazenoko-kyushu.or.jp>

E-mail: info@kazenoko-kyushu.or.jp

■北海道 ☎011 (726) 3619 ■東北 ☎0241 (23) 0812 ■東京 ☎03 (3466) 8339 ■中部 ☎058 (215) 7780 ■関西 ☎075 (957) 8502 ■沖縄 ☎0120 (0481) 88